

高速バトルを制した鎌田卓麻 WRX が2勝め一番乗り



SA2クラスは「ドライタイヤの88で
決め打ちしてきた」鎌田卓麻選手が
オーバーオールウインのタイムを叩
き出して今季2勝めを獲得。

全

日本ダートトライアル選手権第4戦は
全国屈指の高速コース、オートスポ
ーツランドスナガワが舞台になった。

石狩川の広大な河川敷を利用したこのコース
は、河川敷の土手から一望できる上段部分と、
石狩川により近い下段部分の、広大なふたつの
エリアで構成されている。上段に設けられたス
タートから外周沿いにストレートを走り、
100km/hオーバーで1コーナーに飛び込み、
そのまま外周をつたって下段エリアに下りて、
速度の乗るS字セクションなどをクリア。その
後、再び上段に上がって豪快な高速コーナリン

グに挑んでゴール、というのがいつものスナガ
ワのパターン。今回もそんな度胸勝負の豪快な
設定が用意された。

コンマ2秒の間に4台がひしめく大接戦とな
ったPN1クラスは、昨年から全日本を追い始
めた地元期待の若手、井土拓巳選手が全日本初
優勝をさらった。

「勝負の2本めが得意のウェットタイヤ031の
路面になってくれたことが勝因ですね。地区戦
でもいつもウェットしか履かないんですよ。ウ
ェット感があつた下段で稼ごうと思ったんです
が、上段でかなりミスして、「終わった」と思い

ながらゴールしたんですけど、何とか逃げ切れ
ましたね」と井土選手。このクラス、2位にもス
ポット参戦の左近弘道選手が入り、地元北海道
勢が1-2を飾った。

SC2クラスでも京都から遠征の上村智也選
手がヒート1の3番手から逆転を果たし、全日
本初優勝を飾った。

「1本めの反省を活かして、2本めは走らせ方、
ラインとかいっぱい修正して走ったのが報われ
ました。やっぱり下段をいかにロスなく走れる

PN1&PN2クラス / 1.2.PN1は地元の井土拓巳選手がシード勢
を抑えて全日本初優勝。3.連勝を狙ったPN1山崎利博選手は3位。



4.PN2の3位は九州の今村宏臣選手が
入賞。5.PN1は北海道勢が1-2。2位に
入った左近弘道選手。6.地元で連勝を
狙ったPN2宝田ケンシロー選手だが、2
番手に。7.8.PN2は前戦転倒の細木智矢
選手が復活の2勝め。





N1&N2クラス／9.N1でも北海道勢が健闘。2位入賞の星野幹男選手。**10.N2**の2位には近畿から遠征の西田裕一選手が入賞。**11.N1**優勝は前戦、不覚を喫した岡翔太選手。復讐をアピール。**12.N2**はヒート2もウェットタイヤで勝負に出た北條倫史選手が優勝。**13.N1**で3位と健闘した地元の中澤昌彦選手。**14.**秋田から参戦の伊藤久選手がN2・3位入賞。



SA1&SA2クラス／15.前戦に続き表彰台ゲットのSA2マイケル・ティール選手。**16.**地元の山田将崇選手がSA1の2位を獲得。**17.20.SA1**では今季、DC2インテグラから乗り換えた崎山晶選手がアクセラに全日本1勝めをもたらした。**18.SA1**稲葉幸嗣選手は3位にとどまった。**19.**今季2勝めを狙ったSA2北村和浩選手も3位に甘んじた。



SC1&SC2クラス／21.27.アクセラ旋風はSC1でも吹き荒れて坂田一也選手が優勝をさらった。**22.25.SC2**クラスでは近畿の上村智也選手が優勝。このクラスは2戦続いている全日本初ウィナー誕生となった。**23.SC1**奥村直樹選手は3連勝ならず、2位。**24.SC2**の2位は吉村修選手が入賞。**25.SC1**チャンピオン山崎迅人選手は3位にとどまった。**26.SC2**では磯貝雄一選手が3位入賞。



かが勝負やったと思いますね。今日はホントに豪華なサービスを組んでいただいたんで、恩返しできました。むちゃ嬉しいですね。このクラスもコマ2秒にトップ3がひしめく接戦が展開された。

一方、今回の大会で目立ったのは今季から参戦を始めたマツダ・アクセラの台頭ぶり。2つのクラスを制して、そのポテンシャルを見せ付けた。2WD オーバーオールウィンのタイムを刻んだSA1の崎山晶選手は2番手を2秒以上も引き離す圧巻の走りを見せたが、下段だけで1.6秒もぶっぎった。勝負所をしっかりと踏み抜いたことがスーパーベストに繋がったようだ。

「1コーナーの進入は140km/hは出たと思うんですが、全然怖くなかった。それくらい高速コーナーは安定してるんです。ハンドリング



29.30. 今回も選手会によるデモラン・同乗走行が行われ、人気を集めた。

が いいのでコーナリングがスムーズに行ける。今日のコースレイアウトにはバッチリでした。アクセルワークでちょっとしたシビアさはあるけど、凄いいいクルマです」と崎山選手。

SC1クラスを制した坂田一也選手は「実は運転ミスで1秒はロスしてるんですけど、それでも勝てたのはやはり高速区間で良かったからで

しょうね。でもボディが大きい割に回頭性もいいので、回り込む所もしっかり頭を入れれば回れるんです。ただ今日はコースレイアウトとクルマのベース性能に助けられての勝利。クルマの煮詰めもこれからなので、僕的にはまだタナボタです」と振り返っていた。

D部門／31.炭山義昭選手はミラージュでは最上位の2位入賞。**32.33.**今季初優勝の宮内友秀選手。「クルマは煮詰まってるので後は自分が攻め切るだけです」。**34.**地元の田辺剛選手が3位に入賞。